

【子どもに本を届ける人のための講座】

「子どもたちにどんな本を読んだらいいの？」

講師 公益財団法人東京子ども図書館理事 杉山きく子氏

日時：2024年11月27日（水）10:00～12:00

【プログラム内容】

- 9:55 司会 開催注意事項等アナウンス
10:00 宇都宮子供の本連絡会会長
　　桐生雅美 挨拶
　　講師：杉山きく子氏プロフィール紹介
10:05 会場写真撮影
10:07 杉山きく子氏 挨拶
10:10 講演開始 プロジェクター使用
　　絵本と出会う、絵本と遊ぶ
10:20 物語の世界へ
　　ストーリーの始まり～一人読み、
　　ノンフィクション本について
10:50 小学校のおはなし会での体験 本
　　は人をつなぐ『りんごりらっぱ』の
　　読み聞かせ 良い絵本とは？
11:25 仮想質問に応えて 残酷・古いということについて
11:40 子どもが本を読むとどんな良いことがあるの？石井桃子氏の言葉を朗読
11:50 質疑応答 絵本から児童文学へのステップアップについて
12:00 終了

【講座の様子】

「今日のテーマは真っ向勝負のテーマですね。」と杉山先生の気合の一言からすんなりと一気にめくるめく本の世界へ誘われた。38年間児童図書に携わってきたことが伝わるボリューム満点のテキストを前に、まず、デジタルの普及がより進み、子どもたちの実体験が少なくなっている現状に触れた。そんな時代に逆行しているように見える、人の声で紙の本を読むこと、良書の中には古いものもあることなどについてを先生は年齢別に丁寧に身振り手振りを交えて、実際に本を開きつつ紐解いていく。

ほんの小さい時には遊びの延長としての短く完結する『くだもの』『おにぎり』といった絵本。その中でも子どもはきちんと絵を読んで、自分でストーリーを見つけられるとのこと。それから、絵本の黄金期である3歳では、『ちいさなねこ』などの物語の世界へ。先生が千本ノックのように読み聞かせた写真絵本『ねずみのいえさがし』では、子どもは主人公になりきる。小学校の読み聞かせで『せかいいちおいしいスープ』を読んだ時には「石のスープをママに作ってもらう」と言った5年生の話も。生きた人の声によるおはなしは生きた言葉であり、そこからは発見や共感が生まれる、幼児でも高校生でも聞き方はみんな同じであると、実体験を基にした先生の言葉に今後の活動への意欲を再確認できた。

先生が幅広い年齢層に読み聞かせたことのある『りんごりらっぱ』を実際に読み聞かせして下さり、本の中の「まきじゃく」という言葉が、聞き手同士の心をつないだことを話された。『100 まんびきのねこ』は先生の原点の絵本であり、初めて読み聞かせをした本。この本からは過去の選書の正しさとどこが面白いかを子どもから学んだとのこと。読書は比較や評価ができない上に遅効性がある、子どもたちにはぜひ本の世界を知ってほしい、心を助けて支えてくれる一冊に出会ってほしいという先生に力をいただき、これからも子どもたちに本を届けることを自信もって続けていきたいと強く思った。

【展示リスト】

題	作	絵
くだもの	平山和子	平山和子
ねずみのいえさがし	ヘレン・ピアス	
ちいさなねこ	石井桃子	横内襄
ひとまねこざる	H・A・レイ	H・A・レイ
けんた・うさぎ	中川李枝子	山脇百合子
タンタンの冒険	エルジエ	
いたずらきかんしゃちゅうちゅう	バージニア・リー ・バートン	バージニア・リー ・バートン
木はいいなあ	ユードリイ	シーモント
100 まんびきのねこ	ワンダ・ガアグ	ワンダ・ガアグ
幼ものがたり	石井桃子	